



ごほんぞん

大本尊

アフターケア通信

5

月号

永代経

亡き人からのメッセージ

コラム

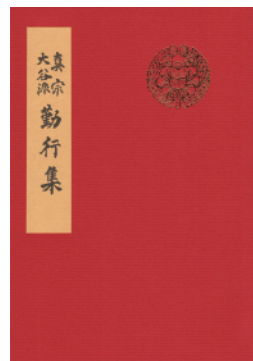
門徒のこころえ

朝夕のお勤め

真宗門徒は朝夕に「正信偈」をお勤めします。お勤めする時は、まず灯明を点じ、線香をたき、念珠を手にします。(お持ちの方は肩衣も着けましょう) ご本尊を仰ぎ、合掌して念仏もうします。

お勤めの始まりには正面に座った人(調声人)が鈴を二打鳴らし「帰命無量寿如来」の一句を発声します。それに合わせて二句目から一同揃って唱和します。

現在の朝夕のお勤めのかたちは、本願寺八代の蓮如上人が「正信偈」と「和讃」を開版し、多くの人に広く勤められたことに始まります。先人は「ふだんの心がけとして朝夕のお勤めをかかさなように」と受け止め、それからおよそ500年以上の間、真宗門徒の習慣(宗風)として大切に受け継がれています。



▲『真宗大谷派勤行集』
お求めは所属のお寺にご相談ください。

表紙イラスト「真宗大谷派勤行集(赤本)」

…普段のお勤めに用いる本。



今月の門徒さん

「永代経と永代供養」

壽福 智子さん (鹿児島別院 伊敷支院)

『広辞苑』第七版によると、永代経とは「故人の供養のため、毎年の忌日や彼岸などに寺院で永久に行う読経。永代読経。永代供養。祠堂経」とあります。しかし、真宗の教えには、追善の供養という考え方はないと聞きました。私がこのことを知ったのは、母を亡くした時でした。

思えば祖父が門徒だったというだけの理由で浄土真宗の門徒になりましたが、私が真宗の教えに触れることになったのは祖父のおかげであり、過去にお寺とご縁があった方たちのおかげで、今ここにお寺が存在しています。

追善供養とは違うかたちで、「永代」に多くの方の想いを未来へ繋いでいくという不思議なご縁を感じずにはいられません。



亡き方がお寺とのご縁つなぎになったのですね。これを機会として周囲の人たちにも真宗の教えをもっと身近に感じてもらえるといいですね。

kyushu-kyoku

九州教区

発行：真宗大谷派 九州教区教化委員会

〒830-0038 福岡県久留米市西町 540-1 TEL.0942-32-3056



えい たい きょう

永代経



永代経とは

永代経とは永代読経の略で、亡き人の毎年の命日やお彼岸など、日を決めて寺院でお経をお勤めし、「永代」に渡って「経」（仏法）を相続していくことを願う行われる仏事です。世間では「遺骨やお墓のお世話をずっとお寺が代わりにやってくれる」という意味の「永代供養」と混同されがちですが、自分や故人の死後の世話を他人にまかせていくような仏事

ではありません。生きています。私たちが仏さまの教え（お経）に聞き、故人を自分に先立って人生を終えていかれた方として仰ぎ、私たち自身の生き様を問いかえしてくださる仏さまとして出遇っていく。この仏事が次の世代、また次の世代に受け継がれていくように勤められることから永代経と言うのです。

お経くお釈迦さまの教えく

お経は「仏説」とあるように、お釈迦さまが説かれた教えであり、そのご説法が後代の弟子たちによってまとめられ文書化されたものです。その後、さまざまな国・地域の言葉に翻訳され、現在では世界中に仏教が広がっています。

「経」という漢字は、もともと縦糸を意味しており、仏教では私たちの人生を支えるものとして表現されています。

す。自らの煩惱によって、振り回されている私たちは、本当に大切なことを見失いがちです。そのような私たちを照らし、人として生きる尊さを教えてくれるものが「経」なのです。

お説法やお経を「ありがたく感じるけれど、難しい」と思われる方も多いことでしょう。しかし、本来の意味からして「経」とは、私たちの願いをかなえるためのまじないや、亡き人に対して捧げる

呪文などではなく、今を生きるものに向けて説かれたものです。「私のため」と受けとめて聞いていきましょつ。



▲親鸞聖人が「正依の經典」とされた『浄土三部経』

未来へのメッセージ

そもそも法要や法事でお経は何のためにお勤めされるのでしょうか。厳かな雰囲気の中で勤められるお経を耳にすると、亡き人だけのために読んでいるようにも思えますがそうではありません。過去(亡き人)を縁としてお経(教え)に触れることで、今を生きる私たちの人生が問いかえられるの

です。そして、この営みが続くことによって、未来を生きる方に教え(仏法)が受け継がれてゆくのです。

真宗本廟(東本願寺)や全国の多くのお寺で勤められる永代経法要は、教えを次の方々へと手渡ししていくために行われているのです。

